

Introduction

多くの学生（高校生・浪人生）から「数学の学力が伸びない」「模試で最後の(3)の問題が解けない」といった相談を受けることがよくある。教育に携わる者なら謙しも経験する話だが、ふと「なぜ、そのようなことが起こるのか?」と考えることがある。彼等の相談の内容から感じることは、「やり方(質)」の改善箇所があることと、「量」の少なさである。

下の表で、多くの学生の状況と数学ができる学生の状況の一例を紹介しよう。

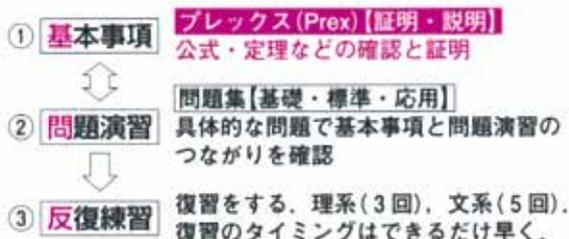
多くの学生の状況	数学ができる学生の状況
予習はざっと見て解く程度。	予習でわからないところは、教科書などで公式や解法を調べる。
授業は聞いて理解。	授業でわからないところは、後で友達や先生に質問。
ノートは板書を写す。	ノートは、後からの復習を考えて、見やすく整理してとる。
復習は1回やればよい方。	復習は、「 公式の確認や証明 」などを含めテストの4日前までに一通りやり、残りの3日間
テスト勉強は数日前から始める。	間でわからないところを復習する。

上の表を見ると、君は「ドキッ」とするかもしれない。他教科の勉強、部活、リラックスと、やりたい事は沢山ある。そのため、数学の勉強はある程度のところまで進めば、そこで終わらせてしまい、本来やるべき勉強量にいたらない。また正しい勉強方法で勉強しようにも、何をどう勉強したらいいのかが分からず、目先の宿題に取り組むだけで終わってしまっていることも……。

このような状況をまとめると、「数学の学力が伸びない」原因の多くは、勉強の「やり方(質)」と「量」に課題がある。

数学の学力を伸ばすために、「やり方(質)」と「量」に関して、次の3つのことが「必要」である。

『数学の効果的な学習』



①～③の中で、本書の立ち位置は、

「公式」「定理」「数学的な考え方」の 「証明(Proof)」と「説明(Explanation)」

に特化した「①基本事項」の参考書である。「基本は、発展の始まり！」であり、「①基本事項」は発展問題や数学の根本理解を助け、数学の学習の「質」を高めるのに役立つ。多くの問題集は「②問題演習」に特化している。さらに、「量」を確保するために複数回の「③反復練習」が必要であり、「③反復練習」がなければ、せっかく勉強した内容も定着しない。

「①基本事項(数学の基礎・基本)」を知り、「②問題演習」をし、「③反復練習」をすれば、数学の学習の「質」と「量」は確保され、多くの学生の課題は解決されるだろう。「質」を確保するためにも、本書を「②問題演習」と共に活用してほしい。

・「練習問題」について

基本事項の証明や説明を読んだ後に簡単な問題(「練習問題」)を用意してある。内容の理解につながるので、解説を読んだ後に是非取り組んでほしい。

・「【発展】項目」について

【発展】としている項目がある。これは、数学的に難しい内容や文系の学生(数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bのみを履修している人)にとって範囲外である内容を含むことを表す。しかし、数学的には大切なものも含むので、心して取り組んでほしい。

最後に、本書の製作にご協力いただいた河合塾数学科の講師の皆様、河合出版の編集部、教え子の柴田君、心から感謝申し上げます。この本で多くの学生の課題が解決されることを願う。

2019年4月

プレックス製作委員会

Contents

はじめに	2
------	---

数学 I

数と式

因数分解(たすき掛け)	10
展開の公式とそこから得られる等式	11
絶対値の性質	12
絶対値のついた方程式、不等式	13
平方根の性質	14
2重根号	15

2次関数

平方完成	16
2次方程式の解(解の公式①)	17
2次方程式の解(解の公式②)	18
2次方程式の解の個数	19
平行移動(2次関数 $y = a(x - p)^2 + q$ のグラフ)	20
x 軸に対しての対称移動	21
y 軸に対しての対称移動	22
原点に対しての対称移動	23
2次方程式の重解	24

図形と計量

正弦定理	25
余弦定理	26
$90^\circ - A$ の三角比	27
$180^\circ - \theta$ の三角比	28
三角形の成立条件	29
辺と角の大小関係	30
三角形の面積	31
内接円の半径	32
四角形の面積(対角線の積)	33

数学 A

場合の数

和の法則	61
積の法則	62

トレミーの定理	34
ヘロンの公式	35
面積比	36

集合と命題

集合と要素	37
部分集合と空集合	38
共通部分と和集合	39
全体集合と補集合	40
ド・モルガンの法則	41
包除原理	42
命題とその真偽	43
逆・裏・対偶	44
対偶命題と真偽	45
必要条件・十分条件	46
背理法	47
鳩の巣の原理	48

データの分析

四分位数	49
箱ひげ図	50
平均値	51
仮平均法	51
分散①と標準偏差	53
共分散①と相関係数	54
【発展】分散②	56
【発展】共分散②	57
平均における変量の変換	58
分散・標準偏差における変量の変換	59
共分散における変量の変換	60

順列	63
円順列	64
数珠順列(ネックレスの順列)	65

0以上の実数の大小と平方の大小	139
三角不等式	140
相加平均と相乗平均の大小関係	142
コーシー・シュワルツの不等式①	143
コーシー・シュワルツの不等式②	144

複素数と方程式

共役な複素数の性質①	145
共役な複素数の性質②	146
2次方程式の解と係数の関係	147
3次方程式の解と係数の関係	148
共役な複素数解の存在	149
剰余の定理	150
因数定理	151
方程式の有理数解	152

図形と方程式

数直線上の内分	153
数直線上の外分	154
座標平面上における内分点, 外分点の座標	155
座標平面上における三角形の重心の座標	156
2点間の距離	157
直線の方程式	158
平行条件①	159
垂直条件①	160
平行条件②	161
垂直条件②	162
点と直線の距離	163
円の方程式	165
円の接線の公式①	166
円の接線の公式②	167
極線	168
交点を通る図形①(直線束)	169
交点を通る図形②(円束)	170
平行移動	172
x 軸に関する対称移動	173
y 軸に関する対称移動	174
原点に関する対称移動	175

軌跡	176
領域①	178
領域②	179
領域③	180

三角関数

三角関数の相互関係(一般角)	181
$\theta \pm 2n\pi$	182
負角公式($-\theta$)	183
$\theta + \frac{\pi}{2}$	184
$\frac{\pi}{2} - \theta$	185
$\theta + \pi$	186
$\pi - \theta$	187
加法定理(正弦・余弦)	188
加法定理(正接)	190
2倍角公式	191
3倍角公式	193
積和公式①	194
和積公式①	194
積和公式②	195
和積公式②	195
半角公式	196
三角関数の合成①(正弦)	197
三角関数の合成②(余弦)	198

指数・対数

指数の拡張①	199
累乗根の性質	200
指数の拡張②	202
指数の大小	203
対数の公式①	204
対数の公式②	205
対数の公式③	206
対数の大小と真数の大小の関係	207
常用対数の値	208
桁数	209
小数第 n 位に初めて0でない数が現れる数	210
最高位の数の求め方	211

微分法

微分係数	213
導関数	214
x^n の導関数	215
導関数の性質	216
接線の方程式	217
法線の方程式	218
$f(x)$ の増減と $f'(x)$ の符号	219
極値と導関数の符号	220
【発展】 $f'(x)$ の符号と曲線 $y=f(x)$ の凹凸(数学Ⅲの内容を含む)	221
【発展】曲線 $y=f(x)$ の変曲点(数学Ⅲの内容を含む)	222
【発展】3次関数「対称性(変曲点)」(数学Ⅲの内容を含む)	223
【発展】3次関数「1:2」の法則(数学Ⅲの内容を含む)	224

【発展】5点定理(数学Ⅲの内容を含む) … 225

積分法

不定積分	226
定積分	227
x^{2n-1} と x^{2n} と c (定数)の定積分の性質	228
定積分と微分	229
積分と面積	230
2曲線間の面積	231
$\frac{1}{6}$ 公式①	232
$\frac{1}{6}$ 公式②	233
$\frac{1}{3}$ 公式	235
$\frac{1}{12}$ 公式	237

数学B

数列

等差数列の一般項	239
等差数列の和	240
等比数列の一般項	241
等比数列の和	242
Σ の性質	243
数列の和の公式①	244
数列の和の公式②	245
数列の和の公式③	246
階差数列と一般項	247
部分分数分解を利用した和の計算	248
和と一般項	249
Σ [(等差数列) \times (等比数列)]	250
漸化式($a_{n+1}=a_n+d$, $a_{n+1}=ra_n$)	251
漸化式($a_{n+1}=a_n+(n$ の式))	252
二項間漸化式($a_{n+1}=\rho a_n+q$)	253
二項間漸化式($a_{n+1}=\rho a_n+q^n$)	254
二項間漸化式($a_{n+1}=\rho a_n+qn+r$)	255
三項間漸化式($a_{n+2}+\rho a_{n+1}+qa_n=0$)	257

連立漸化式($a_{n+1}=\rho a_n+qb_n$, $b_{n+1}=qa_n+pb_n$)	259
連立漸化式($a_{n+1}=\rho a_n+qb_n$, $b_{n+1}=ra_n+sb_n$)	260
数学的帰納法①	262
数学的帰納法②	263
数学的帰納法③	264

ベクトル

ベクトルの和と差	265
ベクトルの実数倍①	266
ベクトルの実数倍②	267
単位ベクトル	268
ベクトルの成分表示	269
ベクトルの平行条件	270
ベクトルの大きさ	270
内積と成分表示	271
内積の性質	272
垂直なベクトルと内積	272
内分点の位置ベクトル	273

外分点の位置ベクトル	274
中点の位置ベクトル	275
三角形の重心	276
直線のベクトル方程式	277
共線条件	278
三角形の面積①(ベクトル表示)	279
三角形の面積②(成分表示)	280
円のベクトル方程式	281
(空間)ベクトルの大きさ(成分表示)	282
(空間)内積と成分表示	283
平面の方程式	284
共面条件	285
空間における球面の方程式	286

練習問題の解答・解説	297
------------	-----

索引	356
----	-----

確率分布

確率変数の期待値	287
$aX + b$ の期待値	287
確率変数の分散と標準偏差	288
分散の計算	289
$aX + b$ の分散と標準偏差	290
確率変数の和の期待値(同時分布)	291
独立な確率変数の積の平均	292
独立な確率変数の和の分散	293
二項分布(平均・分散・標準偏差)	294